

ルネッサンススピーチ（井上康生）

嘉納治五郎杯東京国際柔道
大会 2008 ワールドグランプリ
（2008年12月10日収録）
（12月12日～14日会場放映）



皆さんこんにちは、井上康生です。

今日は、柔道ルネッサンスのスピーチを依頼されまして、これまで私自身が柔道を通じて体験したことや、また感じたことを少しお話をさせていただきたいと思います。

私は5歳の時に柔道と出会いました。父が柔道家だったんですけど、その父の道場での姿に憧れて、柔道って格好いいなという思いを持ち、それがきっかけで柔道を始めました。今振り返ると、始めた当時から私自身、大きな夢というものを持っていたように思います。皆さんも、色々な夢を持っていたと思います。例えばウルトラマンや仮面ライダーになりたいといったような夢があったと思います。私自身は、それが柔道で強くなりたい、オリンピックで金メダルを取りたいという夢でした。そうした夢や、成長して行く中でプラス目標というもの、その2つをずっと持ちながら現在も、また今後もだと思いますが持ち続けることで私は色々なことを達成できたんじゃないかなと思っています。ですから皆さんも、夢や目標を持って、それに向けて精一杯、一生懸命頑張ること、それがとても大事なことじゃないかなと思います。私はその夢や目標に向け精一杯頑張ったことで、全日本選手権や世界選手権、そしてオリンピック

でも優勝することができたのだと思います。今後もそうした夢や目標を持ちながら、生きていこうと思っているところです。

それから、私自身がそうしたものを達成できたもう一つの大きな要因、それは皆さんの支えです。家族、先生方、友人、ファンの皆様、そうした多くの方々が応援してくれ、支えてくれたからこそ、ここまでこれたのだと思っています。今後、こうした方々にしっかり恩返しができるように、また頑張っていきたいと思っています。

また、私がここまでの柔道家として、また人間として育てたのは柔道があったからだだと思います。「柔道」というのは柔の道と書きますが、私の中での解釈では、「柔」の部分というのは、これまでの私の柔道人生のように、いかに勝ちを追求していくかといった「勝負」や、また「技」を極めるといった部分が大半を占めていると思っています。今後の人生では、「道」の部分でどれだけ極めて行けるか、そこにチャレンジし、死ぬ時にこの「柔」と「道」がしっかりと結びついて、「精一杯柔道のために頑張ったな」と言えるような人生を送れるよう努力して行きたいと思っています。

最後になりましたが、子供たちの皆さんも、柔道の稽古に一生懸命取り組んで、こうした嘉納杯国際大会に出場できる、日本を代表するような選手になれるよう頑張ってください。また、色々と柔道を支えてくれるファンの皆様には、今後とも柔道を精一杯応援していただければと思います。

これで終わります。どうも有難うございました。